

新発田税務署長賞

「自他共栄」の精神と税がもたらす恩恵

新発田市立 第一中学校 三年 桐 生 菜々子 さん

私は中学校入学と共に柔道部に入部しました。これまで柔道経験は無かったので、「礼に始まり礼に終わる」礼儀を大切にしたい理念に魅力を感じました。

柔道の講習会で、近代柔道の創始者である嘉納治五郎先生の「精力善用」「自他共栄」という言葉を知りました。「精力善用」とは、「心身のもつすべての力を最大限生かして、社会を善い方向へ用いる」ことです。「自他共栄」とは、「互いに信頼し合い助け合って、自分も他人も共に栄える」ことです。この二つは、柔道の規範となっています。

この教えは、多くの若者に影響を与え、修行で培った力は、相手をねじ伏せたり、威圧したりするために使うのではなく、世の中を良い方向に動かすために使わなければならない。また、講道館柔道が世界の柔道へと発展していった背景には、嘉納先生が自らの技を磨くだけでなく優れた後輩を育てるために国籍や人種に囚われず公平に指導したということが大きいとされています。

今年の夏、東京オリンピックが開催されました。日本発祥の柔道が嘉納先生の教えで世界各国に広まり、日本選手団も大活躍して日本国民に大きな感動を与えました。この感動の背景には、嘉納先生の「精力善用」「自他共栄」の精神が、長い年月を経て、世界中に広まり、世界で愛される競技となったからだと思います。

私は、小学六年と中学三年で受けた租税教室の授業で、国民ひとりひとりが納める税金で、私たちの生活が成り立っていることを改めて感じました。オリンピックの競技施設の建物にも多くの税金が使われています。

私は、まだ中学生なので所得税や固定資産税は支払っていませんが、文房具やお菓子を買うときに消費税を支払っています。ひとりひとりが支払う税金は少なくても大きな施設を作ることにはできませんが、みんなの力が集まることで大きな力となり、オリンピック施設のような大きな施設を作ることができます。

税金で作られた学校で私達は勉強できたり、道路や橋が建設されたりして生活が便利になっています。今回もオリンピックの開催を通じて国立競技場などが建設され、これからも語り継がれる感動が生まれました。

だから、税金を支払う時は「これからの日本を作るための未来への投資」と思って払いたいです。最近、消費税が上がって「なんで？」と思ったこともありましたが、私たちが受けている恩恵から考えれば、決して高いものではないと思います。税金で作られた学校や施設がこれから先も大切に使い続けられることを考えれば、安いものかもしれません。

これから先も、柔道を通じて学んだ「自他共栄」の精神で納税の意義を理解し、国民ひとりひとりが暮らしやすい日本になるよう努力していこうと思います。